

問1

みどりには、みどりが存在することで発揮される「存在効果」、みどりの利用を通じて発揮される「利用効果」、みどりの周辺地域に波及し発揮される「波及効果」という3つの効果*があると考えられている。

「存在効果」には、防災・減災や環境調整、生物多様性の保全、景観形成といった、都市機能を支える効果が挙げられている。例えば、防災・減災の面では、みどりは災害時の避難場所や災害応急対策活動の空間として機能するだけでなく、火災発生時の延焼を防止する空間として機能する。

このように、みどりは都市生活の様々な場面でその効果を発揮するものであり、それらの効果を最大限に発揮させることが重要である。

みどりにおける「利用効果」及び「波及効果」について、それぞれ1つ以上の具体的な効果を挙げ、説明しなさい。(400字程度)

※武田 重昭著 区画整理 66(4) : 2023.4 「公園から都市を編成する」より

問2

大阪市では、自然のみどりが少ない都市特性を踏まえ、これまで都市公園や街路樹を中心にみどりの量的な充足に重点を置いて取り組んできた。

本市のみどりのまちづくりを取り巻く社会情勢は、みどりを含む都市基盤が一定程度整備され、都市におけるまちづくりはこれまでの「成長」から「成熟」のフェーズを迎えつつある。また、人々の価値観の多様化やWell-being（心・体・社会的な健康）への関心の高まりを背景に「都市における一人ひとりの生活」がより重視されるようになっている。

2025年4月から夢洲において「大阪・関西万博」が開催されている。万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」は、一人ひとりの幸福な生き方を問うものであり、今後、大阪市のみどりのまちづくりにおいても、こうした万博のレガシーを次世代へつなげる視点も求められている。

このように、社会情勢が大きく変化している状況で、都市におけるみどりの果たすべき役割は、これまで以上に多様化しているとともに、みどりそのものだけでなく、みどりに対する人々の感じ方や、みどりによる行動の変化に着目する必要がある。

そのような背景を踏まえ、現在改訂中の「大阪市緑の基本計画」では、人の感情や行動など「人」に主眼を置いた計画として、市民の満足度向上や新たなアクションのきっかけとなるような取り組みを検討しているところである。

そこで、今後の大阪市公園施策や緑化施策を進めるにあたって、あなたが重要だと思う視点を次の①～⑦から1つ選択し、大阪市に住む・働く・訪れる人々の生活が豊かになるために、大阪市の技術職員（造園）として考える課題とその解決策を提案しなさい。（800字程度）

〈視点〉

- ①大震災や都市型洪水など都市災害への対応
- ②都市における自然環境・生物多様性の保全
- ③気候変動への対応や都市環境の改善
- ④都市の個性や魅力・風格の向上
- ⑤多様な主体によるまちづくりと連携したまちの価値向上
- ⑥みどりの創出・保全と情報の発信・共有
- ⑦一人ひとりのいきいきとした都市生活の実現